

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：32631

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12897

研究課題名(和文)グローバル人材のための文字教育の開発 - 漢字を「むずかしい」から「楽しい」へ

研究課題名(英文)Development of Character Education for Global Talent - from "Difficult" to "Fun" kanji

研究代表者

小川 早百合 (OGAWA, SAYURI)

聖心女子大学・文学部・教授

研究者番号：20276653

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：非漢字圏の日本語学習者が、漢字を楽しく学べ、身に付けることができる教材の開発を行うことを目的とした研究を行った。その基礎として海外での日本語学習者に漢字学習をどうとらえているかの調査を行い、その結果分析に基づいて、日常生活の中から5場面(天気・季節、大学の生活、病気・薬、旅行、恋愛・結婚)を選び、「使える漢字シリーズ」5点を作成した。コンセプトは、楽しく漢字を学べる、テーマごとに薄いリーフレット形式、よく使われる基本的漢字を選択、漢字や熟語の意味理解を助けるためのイラスト・写真などの多用。

完成した教材は、調査に協力してくれた各教育機関で使用、フィードバックを得ることを目指した。

研究成果の概要(英文)： We conducted a study aimed at developing Japanese learners in non-Kanji areas to learn Chinese characters fun and learn materials that can be acquired. Based on the analysis, we conducted a survey on how to understand kanji learning abroad as a basis of it, and found 5 scenes from daily life (weather & season, university life, diseases & medicine, Travel, romance & marriage), and created five points of "Kanji available series". The concept is (1) fun learning kanji, (2) thin leaflet form for each theme, (3) selection of commonly used basic kanji, (4) illustrations and photographs to help understand the meaning of kanji and idiom.

The completed teaching materials were aimed at using and receiving feedback at each educational institution that cooperated in the survey.

研究分野：日本語教育

キーワード：漢字 文字教育 漢字教育 漢字学習 非漢字圏

1. 研究開始当初の背景

この20年、日本語教育の中でも、特に文字教育の研究は進まず、文字習得のための教材として主に1979年刊行の『かな入門』(国際交流基金)が未だに主要なテキストとして使われている。そこで、本研究では昨今、非漢字圏の学習者が留学生、さらには就労者として増えてきた背景を踏まえ、文字教育の中でも特に漢字教育に焦点を当て、国内外の現状を調査・分析し、学習者にとってよりよい文字教育の在り方を提示するものである。殊に漢字教育においては漢字を覚えるという点だけを考えれば、その多くは漢字の字形教育が充分ではなく、また年齢的にも高い留学生にとって効果が薄い(鹿島1995)と考えられている。加えて非漢字圏の学習者にとっての漢字学習の難しさは岡崎(1993)の研究で、5つの理由が示されている、音標文字に慣れ親しんでいる学習者には根本的に趣を異にする漢字に違和感、1つの漢字に何通りもの読み方、同音異義語や同訓異字、漢字数の多さ、字形の複雑さである。このうち、
は学習者の漢字学習意欲の減少にもつながるものであり、本研究でもこの点に焦点を当てるものである。一方、漢字圏の学習者にとっての漢字学習が、読みの部分での困難さにおいて非漢字圏学習者と変わらないことも忘れずに着目しておく。

2. 研究の目的

本研究ではこの20年間ほとんど研究が進まなかった文字教育、主に漢字学習について調査、考察、分析をし、最終的にはグローバル人材育成の一助となり得る自律的な学習につながるプログラムを提示するものである。留学生30万人計画の実現、さらにグローバル人材登用は日本にとって必要不可欠な課題ではあるが、実現には障壁が高いことも事実である。日本企業でのキャリア形成とグローバル人材とのそれとは理解、意識ともかなり乖離しており、その溝を埋める作業が、双方共にうまくできていない。様々な原因があると考えられるが、その中の一つが異文化理解への適応とグローバル人材が日本社会にソフトランディングできるシステムが機能していないことにある。留学生、さらにはグローバル人材が直面する異文化、特に文字学習に関連する問題を取り上げ、調査、考察、分析し、上記問題の解決の糸口を探る。

3. 研究の方法

- (1) 漢字教育に関する先行研究調査：文献約50本についての内容を検討
- (2) 海外での漢字教育に関する知見を得る：海外での漢字教育に携わる講師を招く(ニュージーランドの大学で日本語教育に携わるNesbitt教授の講演会開催)
- (3) 日本語学習者の漢字に対するイメージ

調査の実施

調査方法：学習者に対してはアンケート用紙及びインタビュー。日本語教師に対しては、インタビュー調査。

調査場所：ミャンマー(ヤンゴン市)、ラオス(ピエンチャン市)、ベトナム(ホーチミン市、ハノイ市)、タイ(バンコク市)の日本語教育機関(大学、日本語学校)

調査内容：学習者に対しては「好きな漢字、覚えやすい漢字ベスト5」および「日本語学習歴」についてのアンケートとインタビュー調査。教師に対しては、漢字教育の工夫などについておよび、非日本語母語話者の教師には、教師自身の漢字に関する学習経験についてのインタビュー調査。

(4) 教材の作成：

調査結果に基づき、漢字を楽しく学べる新しい教材(ワークブック)を作成する。作成した教材(ワークブック)を本調査への協力を得た海外の教育機関で使用してもらい、フィードバックを得て改良し、汎用性のある教材を世界の日本語機関に提供していくことを目指す。

4. 研究成果

(1) 調査概要 調査

1) 目的：習得漢字の分類：「好きな漢字」「覚えやすい漢字」という観点からの分類

2) 調査時期・場所

- ・2016年9月9日ヤンゴン外国語大学(ミャンマー)
- ・2017年9月8日ラオス国立大学(ラオス)

3) 調査対象・方法・目的

大学での日本語学習者対するにアンケート及びインタビュー調査

アンケート用紙に、その場で思いつく「好きな漢字」「覚えやすい漢字」を上限5個記入し、その漢字・漢字語彙の隣の欄に選んだ理由を記入してもらう。

インタビュー：アンケート用紙への記入後に以下の項目についての口頭で答えてもらい書き取り。

質問1：好きな漢字およびその理由

質問2：覚えやすい漢字およびその理由

質問3：自宅での漢字学習時間

質問4：1週間で、覚える漢字数

質問5：漢字を覚える方法

質問6：漢字を覚えるための工夫

質問7：漢字の勉強で、楽しい点

質問8：漢字の勉強で、難しい点

質問9：大学卒業後の希望進路

質問1、2は、アンケートの回答内容を確認するための質問、質問3から8は被験者の現在の漢字学習状況を確認するための質問、質問9は、被験者の日本語学習目的を確認するための質問である。

4) 調査結果

「覚えやすい漢字」に挙げられた漢字は、全体的に「好きな漢字」に比べれば、ストローク数が少ない傾向が見られるものの、インタビュー内容から判断すると、学習者にとっては、必ずしも「ストローク数が少ない漢字は覚えやすい漢字」という認識ではないらしい。記憶への定着という面で考えるならば、学習者にとっては、字形の簡単さよりも、読み書きの頻度が高いこと、漢字の意味理解への手がかりがあることの方が優先されているようである。また、「覚えやすい漢字」の理由として「頻度」が多く挙げたことは、漢字学習の「楽しさ」を考える上で注目すべきことである。

表1: 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由の分類方法

分類項目	分類方法詳細
①意味1 (価値観)	学生が、その漢字が表す意味、概念が好きな漢字。特に、自分が大切にしている価値観を表す漢字。
②意味2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの)	学生が好きな物を表す漢字。特に、身の回りの好きなもの、身近なもの、興味があるものを表す漢字。
③パーツ	漢字の一部分に、既に知っているパーツがある漢字。あるいは、パーツそのものの漢字。
④形	ストローク数が少なく、書きやすい漢字。象形文字のように、漢字の形をストーリーで理解できる漢字。
⑤熟語	その漢字を使って漢字熟語が作りやすい漢字。一つ覚えておくことで、効率的に漢字熟語のパリエーションが増える漢字。
⑥頻度	日本語学習の際によく出てくる、また使う漢字。
⑦属性	名前、生まれた曜日、干支、性格、年齢など、自分の属性を表すために使う漢字。
⑧学習順	日本語学習における学習順位が早い漢字。あるいは、学生自身の漢字学習において、学習の順番が早かった漢字。
⑨読みやすさ	学生のこれまでの日本語学習においては、複数の読み方が出てこなかったため、読み方を覚えやすかった漢字。
⑩その他の興味	上記①～⑨以外

表2: 被験者が挙げた漢字、漢字語彙の延べ語数と割合

分類項目	ラオス国立大学		ヤンゴン外国語大学	
	好きな漢字 (合計 165 個)	覚えやすい漢字 (合計 161 個)	好きな漢字 (合計 36 個)	覚えやすい漢字 (合計 36 個)
①意味1 (価値観)	22 個 (13%)	0 個 (0%)	15 個 (42%)	0 個 (0%)
②意味2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの)	79 個 (48%)	27 個 (17%)	9 個 (25%)	3 個 (8%)
③パーツ	5 個 (3%)	4 個 (2%)	7 個 (19%)	7 個 (19%)
④形	23 個 (14%)	70 個 (43%)	0 個 (0%)	7 個 (19%)
⑤熟語	0 個 (0%)	0 個 (0%)	5 個 (14%)	0 個 (0%)
⑥頻度	24 個 (15%)	49 個 (30%)	0 個 (0%)	14 個 (39%)
⑦属性	8 個 (5%)	4 個 (2%)	0 個 (0%)	0 個 (0%)
⑧学習順	3 個 (2%)	3 個 (2%)	0 個 (0%)	3 個 (8%)
⑨読みやすさ	0 個 (0%)	4 個 (2%)	0 個 (0%)	0 個 (0%)
⑩その他の興味	1 個 (1%)	0 個 (0%)	0 個 (0%)	2 個 (6%)

表3: 「好きな漢字」(ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学)

分類項目	ラオス国立大学	ヤンゴン外国語大学
複数回挙がった漢字	愛(5)、雨(6)、行(2)、家(5)、夫(5)、海(3)、金(6)、川(4)、木(3)、車(2)、語(4)、魚(2)、好(5)、食(5)、月(2)、時(2)、年(2)、友達(2)、花(5)、母(10)、人(4)、本(3)、学(2)、見(2)、水(2)、休(2)、山(5)、雪(3)、夢(2)、料理(2)、私(3)	愛情(2)、幸せ(2)、楽しい(2)
①意味1 (価値観)	愛(5)、家、命、思、家庭、金、来、国、心、幸、発音、人、平和、毎日、安、友好、夢(2)	愛、愛情(2)、家族、幸い、幸せ(2)、自信、正直、素直、楽しい(2)、忍耐、勇気、優勝
②意味2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの)	間、雨(3)、家(3)、夫(5)、漕(3)、形、金(4)、木(2)、車(2)、語、米、魚(2)、桜、好、関、先生、爽、食(2)、父(4)、冷、友達(2)、日、猫、花(4)、母(9)、星、本(3)、学(2)、水(2)、持、休(2)、山(4)、雪(3)、留学、料理(2)	黒、桜、月、椿、日本、日本語、花、文化、蘭
③パーツ	雨、家、子、好(2)	動、男、覚、働、見、眼、夢
④形	合、雨、行、会社、金、川(3)、木、口、父、月、電、年、中、花、母、人、目、物、山、有名、英	
⑤熟語		歌手、選手、手、左手、右手
⑥頻度	行、覚、帰、川、語(3)、上手、好、食、力、出、時(2)、年、何、日本、人(2)、毎、見(2)、私(2)	
⑦属性	明、雨、牛、神、洪、火、良、若	
⑧学習順	今、好、私	
⑨読みやすさ		
⑩その他の興味	月*	

表4: 「覚えやすい漢字」(ラオス国立大学、ヤンゴン外国語大学)

分類項目	ラオス国立大学	ヤンゴン外国語大学
複数回挙がった漢字	雨(4)、行(3)、一(2)、多(2)、女(2)、川(7)、水(3)、口(2)、国(4)、語(4)、心(2)、好(2)、食(3)、田(3)、大(3)、父(3)、月(3)、荷(2)、日(2)、花(4)、母(3)、火(2)、人(5)、本(8)、学(2)、見(3)、水(5)、森(3)、山(9)、雪(2)、私(6)	一(2)、人(2)
①意味1 (価値観)		
②意味2 (好きなもの、身近なもの、興味があるもの)	愛、雨、行、犬、海、家族、川、心、時間、食、父、月、花、語、母(2)、古、本、水(3)、森、山(2)、雪、留学、料理	幸、茶、花
③パーツ	多、森(2)、雪	音、英、覚、草、親、働、見
④形	兄、雨(2)、意、一(2)、完、多、大、思、女、金、川(5)、木(3)、口(2)、国、車、黒、子、語、工、心、十、医、田(2)、大(2)、高、玉、小、力、父(2)、月、出、二、日、働、花、母、火(2)、日、人(5)、本、見(2)、水、未来、門、休、山(5)、分、私	女、心、十、白、千、力、三
⑤熟語		
⑥頻度	新、行(2)、生、学、川、国(3)、語(3)、個人、食、調、好(2)、食(2)、大、月、度、年、何、日、日本、日本語、飲、腹、花、分、本(6)、学(2)、見、水、右、山(2)、私(5)	学校、国、小、食、好、外、大、大学、年、日本、人(2)、分、着
⑦属性	雨、女、花、太	
⑧学習順	水*、学生、大学	一(2)(漢数字)、学
⑨読みやすさ	田、寺、何、部	
⑩その他の興味		正、私

調査

1) 目的: 習得漢字の分類: 「好きな漢字」「覚えやすい漢字」という観点からの分類

2) 調査時期・場所

・2017年3月15日 ホーチミン市師範大学 (ベトナム)

・2017年3月16日 Van Hien 大学 (ホーチミン市、ベトナム)

・2017年3月17日 Phong Dong 大学 (ハノイ市、ベトナム)

・2017年9月7日 Dhurkij Pundit 大学 (バンコク市、タイ)

3) 調査対象・方法・目的

調査と同様の調査を実施

4) 調査結果

調査の結果が他の母語地域でも汎用性のあるものとして確認できた。

(2) 調査から得られた知見

1) 従来の研究において、漢字、漢字語彙の出力理由としては「意味」と「形」が突出しているとされてきたことと相違がない。

本調査においても「好きな漢字」「覚えやすい漢字」の出力理由は、大きく「意味」「形」「頻度」の3つであった。しかし、「好きな漢字」を出力する時の理由には「意味」が多く、「覚えやすい漢字」を出力する時の理由には「形」が多い。

2) 学習者の日本語力が低い場合、漢字、漢字語彙の出力理由が複数にわたることが多い。したがって、日本語学習者の日本語力と、漢字、漢字語彙の出力理由の関連については、従来の自由放出法から明らかにすることは難しい。

3) 学習者の漢字、漢字語彙の出力理由には、学習者自らの出身地域、母文化、学習目的が反映される。

(3) 調査の分析に基づく漢字学習教材作成

1) 教材作成のコンセプト

漢字を楽しく学べ、覚えられる教材とし

て、以下の条件が必要だという認識に至った。

テーマ：日常生活に密接していて具体的な場面が浮かぶもの

学習量：テーマごとに分かれたもので、漢字数も多くないもの。30字前後

レベル：上級のものではなく、日本語教科書でよく使われる基本的漢字から選択し、同じ漢字をさまざまな状況の説明で使われることを見ることによってインプットをやすくする。

体裁：やってみいたいという意欲が湧くような外観。イラスト、画像などを多用し、色使いも美しくビジュアルにも配慮

2) 実際の教材作成

「使える漢字シリーズ」として試作版を作成。

テーマ：「天気・季節」「大学の生活」「病気・薬」「旅行」「恋愛・結婚」の5テーマ

提示した漢字

- ・「天気・季節」晴曇雨雪台風雷強竜巻季節春夏秋冬
- ・「大学の生活」試験授業期卒入進合格就職留路帰得点成績席欠出課題履修登録費奨申請
- ・「病気・薬」病気院頭胃胸腹熱寒痛苦救急呼医者血液検査初診受付保険証薬飲察種類
- ・「旅行」旅森湖川海島神社寺公園遊館鉄飛機乗降歩停空港予約発泊観光写真登泳
- ・「恋愛・結婚」恋愛結婚私達職場出会好告白付合始何回場所行遊園地夜景見時仲直言幸

内容と形式

- ・漢字および熟語の意味を知ることができるもので、かつ漢字読み書きの練習問題付きで自立学習も可能なワークブック形式
- ・体裁
- ・A4サイズ用紙の外観。見開きでA3サイズを2枚横に並べた長さで、両面。A4サイズ用紙8ページ分の内容。シリーズによって用紙色が異なる。
- ・例：以下の画像参照。



図1 使える漢字シリーズ1「天気・季節」表紙



図2 使える漢字シリーズ1「天気・季節」見開き(表紙面)

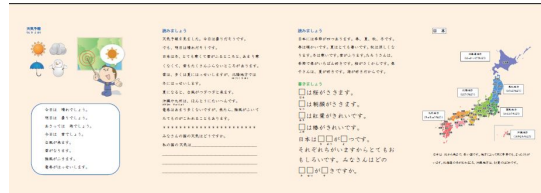


図3 使える漢字シリーズ1「天気・季節」見開き(中面)



図4 使える漢字シリーズ2「大学の生活」表紙



図5 使える漢字シリーズ3「病気・薬」表紙



図6 使える漢字シリーズ4「旅行」表紙



図7 使える漢字シリーズ5「恋愛・結婚」表紙

印刷部数および使用

- ・各シリーズ400部、合計2000部を印刷
- ・同教材(ワークブック)を本研究の代表者・分担者の所属教育機関および上記調査に協力してくれた各国の教育機関、加えて調査終了以後に協力を申し出てくれた教育機関(ヤンゴン外国語大学、ラオス国立大学、ホーチミン市師範大学、Dhurkij Pundit 大学[タイ]、エカテリブルグ大学[ロシア]、アトマジャヤ大学[インドネシア]、ストックホルム大学[スウェーデン]、オークランド工科大学[ニュージーランド])に送付。学習者に配布・使用してもらい、フィードバックを得る。

(4) 今後の課題

各国の学習者から得たフィードバックに

基づき、より使いやすいものに改善し、テーマを拡大し、教材としての選択肢を増やし、同じテーマでも異なる漢字が学べるようなシリーズ化を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

栗原由加、ビジネス日本語における漢字、漢字語彙についての一考察、神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要、査読有、創刊号、2016、71-84、

栗原由加、関かおる、非漢字圏における漢字教育に関する実態調査および提言 ヤンゴン外国語大学におけるインタビュー調査を通じて、神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要、査読有、第2号、2017、17-30、

栗原由加、関かおる、漢字学習の意欲に影響する要因 - ラオス国立大学及びヤンゴン外国語大学の調査結果の比較検討を通じて -、神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要、査読有、第3号、2018、17-32、

栗原由加、関かおる、ラオス国立大学及びヤンゴン外国語大学における漢字学習実態調査報告、JSL 漢字学習研究会誌、査読無、第10号、2018、56-61、

[学会発表](計1件)

栗原由加、関かおる、非漢字圏における漢字学習に関する実態調査結果 - ヤンゴン外国語大学およびラオス国立大学における調査結果より -、第70回 JSL 漢字学習研究会、2017、

[その他]

教材作成(冊子体印刷物:ワークブック形式)
「使える漢字シリーズ1(天気・季節)」「使える漢字シリーズ2(大学の生活)」「使える漢字シリーズ3(病気・薬)」「使える漢字シリーズ4(旅行)」「使える漢字シリーズ5(恋愛・結婚)」

6. 研究組織

(1)研究代表者

小川 早百合(OGAWA Sayuri)
聖心女子大学・文学部・教授
研究者番号: 2 0 2 7 6 6 5 3

(2)研究分担者

関 かおる(SEKI Kaoru)
神田外語大学・神田外語キャリアカレッジ・講師
研究者番号: 2 0 7 3 0 5 9 2

栗原 由加(KURIHARA Yuka)
神戸学院大学・グローバル・コミュニケーション学部・准教授
研究者番号: 5 0 7 3 3 4 8 2

尾崎(渡辺) 久美子(OSAKI - WATANABE Kumiko)
国際基督教大学・教養学部・講師
研究者番号: 6 0 2 0 1 1 7 5

本田 弘之(HONDA Hiroyuki)
北陸先端科学技術大学院大学・グローバルコミュニケーションセンター・教授
研究者番号: 7 0 2 8 6 4 3 3

武井 直紀(TAKEI Naoki)
東京工業大学・留学生センター・教授
研究者番号: 5 0 2 9 3 0 6 4
(平成28年3月23日削除)